

きゅうしょくについて



食事の種類について

• 子どもの発達や年齢に応じて「ミルク」「離乳食(2回食が始まってから)」「幼児食」を提供しています。

※ミルクは保護者の方と相談後ご家庭で使用されているものを提供。

• 心身の健康な育成のために食事の果たす役割は大きく、栄養士による毎月の献立に沿って、手作りの給食、離乳食、おやつを楽しい雰囲気の中で提供します。

• また医師の指示がある場合は個別に「アレルギー除去食・対応食」をご用意いたします。



食育目標

- 1 個々のペースを尊重しながら離乳を完了し、幼児食に移行する
- 2 食事のリズムを作り、健康的な食習慣を身に付ける
- 3 行事食を通して、食の伝統文化をふれる
- 4 野菜の栽培や収穫を通し、食べる意欲・食べものへの関心を育む
- 5 年齢に応じた食事のマナーを身に付ける
- 6 彩り豊かな給食とし色々な食材や料理を味わい、食べる楽しみを育てる



乳幼児食栄養基準量

保育園では昼食・おやつと合わせて1日の必要量の45~50%を摂ることができるように献立を考えています。子どもの成長に必要なカルシウム・鉄・ビタミン類については家庭で摂ることが難しく、不足がちになるため、50%を保育園で摂れるよう努めています。

離乳食

• 0歳児には、個人の発達や生活リズムに合わせ、個別の対応をしています。
基本的には、離乳食の準備期と離乳食初期(1日1回食)はご家庭で始めていただき、1日2回食に移ってから、保育園での離乳食の開始となります。

• 入園時に園で使用する食材、食物アレルギーを起こしやすい食材を中心に記載している食材チェック表をご記入いただき、食べたことのない食材はご家庭で試されてからの提供となります。

• その後は後期食、完了期食とスムーズに乳児食に移行できるよう、月齢や離乳食の進みに合わせてその都度保護者の方と連携を取りながら、進めていきます。

また園では、アレルギーの予防のために、牛乳、卵等の動物性たんぱく質の使い方に考慮しています。



アレルギー除去食

・医師から食べ物アレルギーと診断された場合は医師の指示のもと、除去食指示書をご提出いただき、アレルギー食品除去食・対応食にて対応いたします。

成長、発達著しい乳幼児期は、食べられる食品の中から必要な栄養量を摂ることが大切なので、代替食品で対応していきます。

・毎食専用の食器に盛り付け、配膳の際も保育士に声掛けし間違いがないか確認します。

・可能な限り他の児童と喫食の時間をずらし別テーブルを準備するなど、混在しないようにしています。

・除去食指示書に基づき、保護者の方と保育士、栄養士がその都度話を伺い、対応していきます。

・医師よりエピペンを処方された方は、園長まで相談してください。



ご家庭との連携

・毎月末に翌月の献立表と給食だよりをお渡しいたします。

・毎日の給食、おやつをフォトフレームにて玄関に掲示しています。

・離乳食の進み方やアレルギー対応等、保育士、栄養士が直接話を伺い情報交換を行います。

・子どもの体調に合わせて、食材や調理方法を変更するなどの早急な対応も可能です。



食事に関する指針

1 お腹がすくリズムのもてる子ども

2 食べたいもの、好きなものを増える子ども

3 一緒に食べたい人がいる子ども

4 食事づくり、準備にかかわる子ども

5 食べものを話題にする子ども



行事食の提供

・お誕生日会

・入園、進級お祝い・こどもの日・七夕・十五夜・ハロウィン・冬至・クリスマス

・お餅つき・お正月・七草粥・節分・バレンタインデー・ホワイトデー・ひな祭り

・卒園お祝い など



行事食などの食文化、季節を感じる旬の食材を使用し「食」を通じて季節、文化、伝統を学びます。



大量調理では難しい個別の対応も小規模保育の良さを生かして、その子の状況に応じて固さや大きさなども対応し、一人ひとりのペースに合った給食を提供します。